

町長の意向は対等合併

大崎町合併問題調査特別委員会を開催

9月12日開催の9月定例会本会議において、大崎町議会は、「志布志市との合併を推進する決議」を再決議した。その後、東町長は志布志市に対し、合併の申し入れをしたとのことであり、合併問題調査特別委員会（上原正一委員長）を10月26日に開催し、町長に申し入れ時の志布志市の対応、考え方について報告を求めた。

特別委員会における町長の報告

【町長】

10月4日、議長、副町長、総務課長と志布志市に出向き、本田市長、谷口議長をはじめ市執行部6名に対し、今までの大崎町の動きを説明し、今回、議会が合併推進決議を再決議したことを踏まえ、過去の合併協議会からの離脱等、共生を欠いた行為等があり、失礼なこともあったと思うが、今後、地方分権の対応や住民福祉の増進を考えると、大崎町と志布志市との合併をお願いした。

このことに対し、本田市長は、合併をして1年9ヶ月が経過し、現在は合併の効果を出すために新町づくり構想や行財政改革大綱、定員適正化等、計画に基づき努力している最中である。今のところ新たな合併に向けての特段の準備はしていないとのことであった。また、志布志市全体のコンセンサス（合意）はどうか。市民がどう考えているのか分からない状態であるので、市民に大崎町との合併を問う必要があると思うが、今のところ市民から合併は反対という声は聞いていないとのことである。志布志市側としても、将来的には合併に向けて流れていくものと思われるので、話し合いの場は持つていく必要があるとの認識であった。最後に本町の意思を汲み取っていただき、真剣に大崎町との合併を検討していただくことをお願いしたところである。

今後は、執行部と議会とが車の両輪のごとく盤石の態勢で力強く推進できるように議会の皆様にも協力をいただき、また、志布志市との意思の疎通を図りながら一日も早く合併が実現できるよう努力していきたい。

その後、報告に対して町長の考え方を聞いた

【小野光夫委員】

前回（平成19年3月29日）の話し合いのときと今回訪問したときと志布志市の対応に変化があったか。また、今後、合併に向けての執行部の計画はあるのか。

【町長】

今回は事前に連絡を取り、日程の調整もしたので、正式に会議室での対応であった。相手側の必要な方々には、話している。今後もう遠く

ない時期に会議等がもてるようなお願いもして、熱意が伝わるような動きをしたい。

【小野光夫委員】

協議会の立ち上げが必要だと思うが、リミットはいつ頃だと思うか。

【町長】

志布志市側の一定の判断が出てくれば、そういう協議もできると思うが、現時点では未定である。

【中山美幸委員】

対等合併か吸収合併のどちらを望んでいるのか。また合併する場合、大崎町のあるべき姿、合併後住民福祉が良くなっているのか、重要なポイントである。合併協議する場合の町づくり構想はできているのか。

【町長】

対等合併で申し入れはしてあり、合併後も現在の活力が失われないような町づくりを進めていき

たい。

【中山美幸委員】

合併が目的か、住民福祉を考えての合併か。

【町長】

合併は一体的だと捉え、合併した後もその町に住んでいて不自由を感じない町、町づくりが目に見えるような政策を計画の中に盛り込んでいくべきと考える。

質問終了後に本特別委員会の今後のあり方についての協議を行い、次のような事項を決定した。

○県の合併・分権推進室において、市町村合併に関する研修を行う。

○志布志市の財政状況等の把握。

○志布志市議会との交流会の開催。